発行日　2024年2月　第40号

一般社団法人宮城県助産師会

宮城県助産師会のロゴマーク

宮城県助産師会だより

～巻頭言～　助産師会の活動は、随時募集しています！

代表理事（会長）　塩野悦子

皆様、平素より大変お世話になっております。地震には常々心積りをしているものの、2024年元日に発生した能登半島地震には大変驚きました。被災地の皆様には心よりお見舞い申し上げます。日頃より、北海道・東北地区の会長LINEグループ等で連絡をしておりますので、今後も震災情報が参りましたら、会員の皆様にも随時お知らせをいたします。ご自身やご家族ならびに妊産婦の皆様への防災意識をあらためて高めていきましょう。

さて、2023年度を振り返りますと、当会の委託事業（妊産婦電話相談・助産師サロン・産後ケア事業訪問型など）が順調に実施され、多くの利用者様の満足に繋がっております。包括的性教育やプレコンセプションケアに関連する思春期健康教育なども含め、助産師会の活動に関心のある方は随時募集しています。助産師として共に活動しませんか（連絡先：miyagisanba@gmail.com）。

またコロナ後初めて「じょさんしサロン」、「タクシードライバー研修」を対面で行い、大変意義深い内容であることにあらためて実感した次第です。ご協力いただいた皆様に心より感謝いたします。さらに北海道・東北地区研修会も秋田市で対面開催となり、10月14日には三部会交流会と懇親会、翌日には「対話で育てる関係性」をテーマとした研修会に参加しました。何よりも秋田県助産師会の皆様の温かいおもてなしを受け、交流も深めながら有意義な研修会となりました。2024年度は岩手県での開催です。皆様ぜひご参加ください。

なお、産後ケア事業については、2024年度から宮城県との集合契約が始まります。集合契約のメリットですが、利用者にとっては、参加市町村での広域利用可により、居住地以外の産後ケア事業所の選択肢が増えること、助産師にとっては、個々の市町村との契約の手間がなくなること、書類（願わくば金額）などの統一化により、事務作業が簡便になることなどが挙げられます。この集合契約によって、さらに多くの方が産後ケア事業を利用できるようになることを願っております。全国的に産後ケア事業を主とした開業助産師が増えていますので、宮城県の皆様もぜひご検討いただければ幸いです。

2023年度北海道東北地区代表者会議（秋田10/14）

2023年度北海道東北地区研修会　懇親会（秋田）

2023年度北海道東北地区研修会
懇親会（秋田）

令和5年度　第45回　母子保健奨励賞　*受賞おめでとうございます！*

このたび、栄誉ある母子保健奨励賞を賜りました。機会をいただきました塩野会長をはじめ、皆々様からのご指導、ご支援の賜と深く感謝申し上げます。仙台市長よりご推挙いただき、仙台市で初の受賞者と伺い身に余る光栄に存じます。受賞につきましては、私個人で頂いたものではなく、日々共に活動して下さる助産師の皆様、これまでに出会ったくださった母子の皆様の栄誉と受けとめております。

昨年11月に行われた式典では、受賞者15名に賞状や表彰盾を授与いただき、審査委員長より選考経過や講評を、こども家庭庁長官よりご祝辞を頂戴しました。午後には秋篠宮邸に参邸し、秋篠宮妃殿下のご接見を賜りました。式典や接見前にはリハーサルがあり、想像以上の賞の重みを実感すると共に大変緊張いたしました。広大な赤坂御用地内は豊かな木々が境界になっているかのように、都会の喧騒から隔絶されており、雨上がりには鳥がさえずり神聖な気配が充満していました。

根本靖子

接見では紀子様から受賞者一人一人に慈愛にあふれた励ましと労いのお言葉を頂戴し思わず涙がこみ上げました。身が引き締まる思いと共に、生涯忘れることのない幸せな経験をさせていただきました。

（宮内庁HPhttps://www.kunaicho.go.jp/page/gonittei/photo/22431）

助産院開院後、母子教室やお産のふりかえり会を開催、包括的性教育にも注力してまいりました。産後うつ、子どもの自殺や性被害等が問題視される中、多様な知識と柔軟な思考が求められ、自己研鑽を重ねる日々です。

コロナ禍においては助産師仲間と共に「みやぎ助産師オンラインチーム（M-MOT）」を立ち上げ、オンラインによる産前産後講座を開催し4年目になります。また子育て世代のヘルスリテラシー向上を目指し、乳幼児親向け性教育冊子を作成、性教育講演活動にもチームで取り組んでおります。男性の育休取得率増加などニューノーマル時代に応じた父親支援も見据え、日々ブラッシュアップに努めています。

このたびの受賞を励みとし、また栄誉に恥じぬよう、今後も一路邁進してまいります。誠にありがとうございました。

出張専門助産院アンダンテ 根本靖子

2023年度　みやぎ助産師フェスタ開催報告

スズキ記念病院附属助産学校　佐藤智子

数年ぶりのじょさんしフェスタの開催は、助産師の結束やパワーを実感する機会となりました。私が感じた印象的な事や感動した事を4つあげさせていただきます。

1つめは、8か月の赤ちゃんを連れたパパの言葉です。「ここに居る人、みんな助産師さんですか？助産師さんってすごく少なくて、貴重だと聞いているのに･･･こんなにいるんだ。すごいなぁ～すごい！」と感激されていました。助産師のエネルギーの波動が伝わっているようでした。

2つめは、土地柄でしょうか、出産を控えた今風のご夫婦が多く来場されていました。沐浴や抱っこ体験等、育児技術を習得しようと真剣な眼差しが印象的でした。その人たちに応える助産師のお話の上手な事！とても優しく･わかりやすく･具体的で、安心できる話し方が感動的でした。自分の話し方の下手な事を実感（ガーン）。自分を見つめ直す良い機会となりました。

3つめは、アイドル並みに人気のある助産師の方がいて驚きました。生まれたお子さんを連れてわざわざ会いに来られ、再会されていた方が何人かいました。ある助産師の方は順番待ちになっており、信頼のおける助産師はアイドル並みではなく、それ以上の存在ということがわかりました。素晴らしいですね。

最後に、長町交流フェスタのブースで参加ということもあり、小学生も多く通りました。その際、赤ちゃん人形を抱っこしていただきました。思った以上の反応があり、性教育につなげられる場面が多くありました。次年度は、もっと話し方が上手になって応えられるようになりたいと、初心に帰った日になりました。開催にあたり企画･運営をしていただきました皆様、本当にありがとうございました。

小学生おんぶ体験中

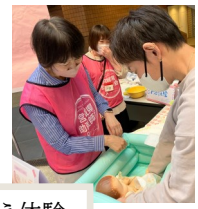
開会式

会長挨拶

総合受付

写真撮影コーナー

開会式


沐浴･着替え体験

貧血チェック中

血圧･骨密度

じょさんし
フェスタ
２０２３
10/28

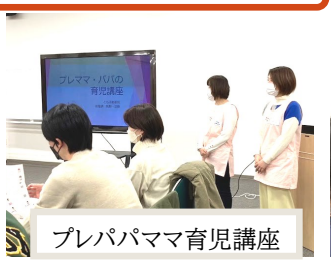
抱っこ体験･育児相談

11月も様々なイベントが開催されました

とも子助産院

新生児トリセツ講座

バランスボール



プレパパママ育児講座

母乳育児のコツ

たまひよ　抱っこ･おんぶ講座

宮城県・仙台市受託事業「助産師による妊産婦電話相談」実施報告

yu-kari助産院　清野由香利

令和5年9月に美里町でユーカリ助産院を開業しました清野由香利です。助産院業務は母乳育児相談やマタニティヨガの他、行政と契約の産後ケア（訪問型）の実施、保育園や育児サークルで親子ヨガなどのイベントも行っています。また、昨年10月からは「助産師による妊産婦電話相談」事業（以下、妊産婦電話相談）に参加しています。

妊産婦電話相談は宮城県・仙台市の委託事業として令和2年7月からスタートし、令和2年度の電話相談件数は総数113件でした。令和4年度は総数440件、令和5年度は1月中旬迄で327件と開始当初より利用件数が増加してきています。

電話相談は開始直後の13時台と17時以降に集中することが多く、特に金曜日や祝前日に相談件数が多い傾向があります。相談内容は妊娠中の不安や育児相談、体調面の相談などです。相談を受けた内容で気になるケースは、相談員内で情報を共有しています。その上で支援方法を検討、必要時は行政機関に繋げて切れ目のない支援に取り組んでいます。

妊産婦電話相談事業は、月・水・金 13:00-19:00（祝休日・年末年始を除く）実施。対象は県内在住の妊産婦です。必要な方に情報が届くように周知のご協力のほどお願いいたします。

「仙台市思春期保健健康教育」 実施報告

とも子助産院　山﨑桃子

今年度、当会では20校、約2200名の市内中学生に、講話をお届けしました。

8月下旬に仙台市の東仙台中学校の3年生212人を対象に思春期教育を実施いたました。当初、7月に体育館で実施の予定でしたが、COVID-19感染症の流行に伴う臨時休校の影響で延期となり、8月の夏季休暇明けに夏場の暑さを考慮し校内の空き教室から、各クラスへ配信する形での実施となりました。

講義の前半は思春期の心、身体、生活のこと、妊娠、出産、性感染症、助産師からのメッセージと盛り沢山の内容のため、生徒さんにメッセージが伝わるか、配信のため直接生徒さんの反応が見られないことが少し不安でした。後半は代表の生徒さんに、妊婦体験ジャケットの体験も実施しました。代表3名が階段の登り下り、寝転ぶ、物を拾うなど動作をし、その様子と体験した生徒さんの感想を各クラスに配信しました。

後日頂いた感想で、日頃の授業とは違った視点で色々な事を考えるきっかけになっていたことを知り、安心しました。また、感想に妊婦体験の事を書いている生徒さんが多くいて、日頃共に過ごす友人が体験する姿が印象に残ったようでした。 私事ですが、久しぶりの生徒さんの前で話す機会、夫の転勤を機に仙台に来てから初めての貴重な機会だったのですが、若い元気なエネルギーを感じ感想文から様々な事を感じて下さっている様子を知り、とてもやりがいを感じました。助産師として細々でもこのような機会を持ち続けたいなと思います。

石巻市委託事業　「親になるための教育事業」 実施報告

石巻赤十字病院　吉田裕美

石巻市内の中学校において「親になるための教育事業」の体験担当として参加いたしました。今年度は、市内13校で開催され795名の中学生が講義を受けられました。講話では、助産師の仕事の紹介から始まり、男女のからだの違いや妊娠のしくみ、思春期のこころ、性感染症、男女交際のありかたについて、多様性に関する啓発（性的マイノリティを含む）の内容を沢山のスライドを使用してお伝えしていました。

今回私が伺った学校では、妊婦ジャケットの着用や赤ちゃん人形の抱っこ体験に加えてNPC法人ベビースマイルさんのご協力のもと乳幼児との触れ合い体験を設けることができました。中学生は、本物の赤ちゃんを抱っこしたり，泣いている赤ちゃんをあやしたり，保護者からの育児体験の話を聞いたりしながら，子育ての楽しさや大変さを体感しているようでした。今回の体験学習が親となる将来について役立ち、考え行動できる知識となることを願います。また講義終了後に、他の助産師らとお茶をしながら振り返りや情報交換の時間を設けていただいたのですが、顔の見える横の繋がりができ有意義な1日となりました。

仙台市委託事業「せんだい助産師サロン」実施報告

ねんねこ助産院　森谷泰子

「せんだい助産師サロン」は、今年5年目を迎えます。COVID-19感染対策に留意しながら、仙台市内の各のびすくにて、月2回程度開催しています。対象は生後2か月から6か月未満まで、ふれあい遊びとママたちの交流会をメインに行っております。従来の対面サロンの他に、オンラインサロンも開催しています。

お悩み相談の内容は様々ですが、「寝てくれない」「夜、何回も起きる」など睡眠に関する相談や離乳食に関するものがよくでてきます。専門的にアドバイスを行うこともありますが、助産師の発言はあくまで補足です。ママたちそれぞれの実体験や我が家の話をしてもらったりすることで、ママ達自身が「正解はない」「これやってみよう」を発見しています。中には的確なアドバイスが出てくることもあります。アンケートでも、「児との遊び方の参考になった」「他のママたちの声が聞けて良かった」といったお声を頂いております。

また最近では、交流会で子どもと一緒に行けるお店やカフェの話題も出るようになり、アフターコロナを感じさせてくれる雰囲気になってきました。オンラインサロンは、4組程度の少人数制で、より個別性の高い内容となることが多いです。ママの相談から遊びの提案が始まることもあれば、プライベートな内容だったりします。また、天候に左右されることがない、お出かけ準備が不要など、オンラインならではのメリットも満載です。外出に慣れない、兄弟がいる、双子であるなどの外出しにくい母子に、是非活用していただきたいです。オンラインサロンに参加した母子は、対面サロンへの参加も可能といったメリットもあります。会員の皆さまからもご紹介いただけますと幸いです。

日々学ぶことが多い中、『あなたの側に、助産師がいます』実践の場として活動させて頂いております。今後とも、会員の皆さまからご支援頂けますよう、何卒宜しくお願い致します。

2023年11月18日（土）宮城県委託事業　令和5年度　助産師人材育成・復職支援研修

第1部　CLoCMiP®レベルⅢ必須研修　性の多様性

LGBTQ+を入り口に考える性の多様性と共生社会　研修報告

Andante　小野直子

第1部では、公立小学校非常勤講師　特定非営利活動法人プライドハウス東京　理事　鈴木茂義先生にご講義いただきました。先生はご自分が心も体も男性であり、恋愛対象が男性であることをカミングアウトし、現在は男性パートナーと一緒に暮らしていることを話してくれました。現在に至るまでのライフストーリーをお聞きすると、さまざまな葛藤があり、しかし、さまざまな決断、そして自分と向き合うことを大切にしてきたのだということが伝わってきました。さらに葛藤があったからこそ前に進めたともおっしゃっていました。先生は大学生の時にはじめて友人にカミングアウトしたとのことですが、兄弟や家族にはずっと後になってからでした。

日本には、パートナーシップ制度や様々な支援団体、相談機関があります。パートナーシップ制度のある自治体は急激に増えています。仙台市には多様な性に関する活動に取り組む「にじいろキャンバス」という団体もあります。また、性の多様性を題材としたドラマや映画がたくさんあることも知りました。しかしカミングアウトしたことによって人間関係の心理的安全性が広まった反面、まだカミングアウトやマイノリティは安心安全とは言えない日本であるとのことです。知らないこと、知る機会がなかったことについて抵抗感があるのは当たり前、それが差別や暴力にならなければ問題ない、しかし知る機会を作ることこそが理解への第一歩であると先生はおっしゃっています。

鈴木茂義先生

当事者の方々からのメッセージや理解者であるALLYの方々からのメッセージを、動画でたくさん紹介していただきました。その表情は皆キラキラしていて、「生まれ変わっても自分がいい」「男らしく女らしくではなく自分らしく」「どうあるべきかではなくどうありたいか」など力強い言葉が印象に残りました。

最近LGBTQ＋というマイノリティを表す言葉から、SOGIE(性的指向・性自認・性表現)という私たちそれぞれの性的指向や自分の性を表す表現に変わりつつあります。その変化には「みんなちがってみんないい」という社会の流れの影響があるのではないかと、今回の講義を聞いて感じました。知らないから受け入れられないならば、まず知ることからはじめようと思います。

最後になりましたが、お忙しい中ご講義いただきました鈴木茂義先生に、深く感謝いたします。

第2部　日本助産師会　産後ケア実務助産師研修⑤　乳児の成長・発達に関する診断と技術

小さく生まれた子を持つ“親”として伝えたいこと　研修報告

ひかり助産院　早坂ひかり

渡邉浩司先生

第2部では、小児科医師であり、超出生体重児のお子さんを育てられたご経験のある渡邉先生の講義を、とても興味深く楽しみにしていました。

私は現在地域で働いていますが、新生児訪問や産後ケアを通して小さく生まれた子の母親に接することがあります。最近も23～24週で出産された赤ちゃんのところに、生後数か月の頃訪問しましたが、成長発達に関して正期産児とは違う特徴があり、相談内容に十分答えられず、対応の難しさを痛感しました。今回の講義では、乳幼児期のみならず、高校生までの長い期間の成長発達と育児についてお話しくださいました。発達の特徴を見極めて、両親の関わりや周りの環境を整えることが大切だと学ぶことができました。

渡邉先生にとっては、講義の中で思い出すことが辛い内容もおありになったのではないかと思います。全体を通して渡邉先生のお人柄がにじみ出る講義で、仙台市にこんな素敵な小児科医がいることがとても嬉しく誇りに思いました。

仙台市委託事業

産後ケア事業　訪問型　実施報告

出張専門助産師　佐藤由美子

～訪問型がはじまり1年を迎えて～

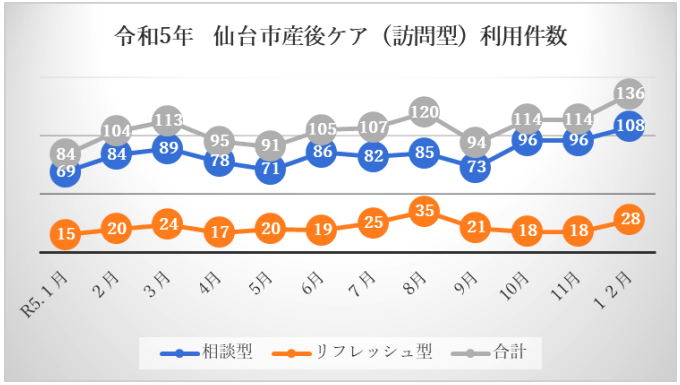
令和4年に始まった仙台市産後ケア事業の訪問型は昨年10月で1年を迎えました。

移動手段がない方、産後早期、双子などで移動が困難、自宅の環境で育児相談したい、など訪問型を利用される方も理由は多岐にわたります。宿泊型、デイサービスなど施設の利用が難しかった方が利用できるなど選択肢が増え、「訪問型ができて助かった」との声を聞くことも多く利用しやすい事業になっていると思います。

感想では「お家で育児相談や悩み事などゆっくり気兼ねなく話せるのでリフレッシュになった。なにより赤ちゃんもリラックスできている空間で話せるのが良かった。」などの声も寄せられています。

令和5年1年間では訪問型利用総数　1277件（訪問型：2時間型1017件、リフレッシュ型：4時間型　260件）と利用件数も徐々に増えている状況です。現在14名の助産師が登録しています。

今年度は研修会が予算化され、研修会では日頃疑問に思っている内容についても学ぶことができスキルアップに繋がっています。今後もそれぞれの対象に合った支援を提供できるよう、皆さんと情報共有しながら励んでいきたいと思います。



「訪問型」助産師の募集！～仙台市産後ケア事業～

①会員である　②損害賠償保険加入者であることを条件とし、理事会の承認を原則とします。

募集：miyagisanba@gmail.com　よりご連絡ください

助産所見学ツアー＆みやぎじょさんしトーークに参加して

保健指導部会　佐藤美和

県内3地域（仙台地区、大崎・登米地区、多賀城・塩釜地区）の合計10ヶ所を見学できるツアーのうち、私は2日間参加し、6施設を見学できました。各施設内の部屋を見学でき、実際に提供される食事と同じものを食べながら、質問できる時間もありました。

助産所の規模は様々で、自宅の一室で産後ケアのみの提供から、妊婦健診～分娩・産後ケアまで取り扱っている施設もありました。分娩取り扱いの3助産所では、同時に助産師安全機能評価も実施しました。助産院の運営においては、利用者へのケア提供だけでなく、事務、調理、人員管理、消耗品管理、建物の維持管理等、幅広い安全管理も必要であると学びました。

産後ケアについては、施設ごとに利用可能な月齢が異なり、寄せられる相談は児の発達段階に応じて様々でした。また、利用目的（休息、相談、リフレッシュ、緊急等）も異なるので、それぞれの助産所の特徴と利用者のニーズを合わせて繋げていく大切さも感じました。

見学後の”みやぎじょさんしトーーク”でも、病院勤務の助産師からは「今回参加したことで、各助産所の提供できるケアが明確にわかり、今後は患者さんの要望や特徴に合わせて助産院を紹介できる。」という意見や、市町村役場勤務の助産師からも「以前よりも産後ケアの紹介がしやすくなり、地域へ繋ぎやすくなる。」等の声もありました。病院、助産院、地域のそれぞれの助産師が集まる貴重な機会となり、横のつながりの大切さを感じました。

今後は、みんなの子育てサポーターとして、助産師がますます身近な存在として認識されるよう活動していきたいと思いました。

最後になりましたが、各助産所では、お忙しい中お時間作って頂き、本当にありがとうございました。

2024年1月11日（木）　2023年度　みやぎ助産師マップ連絡会　開催報告

みやぎ助産師マップ連絡係　阿部美喜

みやぎ開業助産師マップ連絡会は、2023年5月にCOVID-19が5類に変更されましたが、今年度もオンラインで、また時間を夜の時間帯に変更し開催されました。新規掲載1名、次年度掲載希望2名の方を含め28名の方にご参加いただきました。お忙しい中での参加、誠にありがとうございました。

みやぎ開業助産師マップが妊産褥婦さんのお手元に届けられるようになって、すでに20年以上も経過していると聞いております。また約10か所の助産院で始まったマップも、来年度は26か所の助産院が掲載される予定です。産後ケア体制の充実が求められる現在、私たち助産師の持てる力を発揮すべき時でもありますし、産後ケア事業参入助産院も増えております。今後とも開業助産師マップ周知へのご協力を、どうぞ宜しくお願いいたします。

なお、マップ掲載基準については、総会までに提示予定です。今年度までマップ係を担当した千坂芳恵は任期満了となりました。来年度のマップ係は、山口之雪と阿部美喜が担当させていただきます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

2023年10月17日（火）　令和5年度「安否確認訓練（災害に対応する訓練）」実施報告

宮城県助産師会　災害対策委員　戸田恭子

会員の皆さま、毎年実施しております災害に対応する訓練としての安否確認訓練にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

今年度の安否確認訓練は、災害時を想定し、日を定めずに実施する訓練として、2023年10月17日に行いました。災害の想定は「午前10時 震度5強の地震発生 津波なし」とし、災害対策本部長からリーダー・サブリーダーへ一斉メールにて安否確認の発令を行い、その後各グループのリーダー・サブリーダーがグループメンバーの安否確認を行い、本部に報告していただきました。主な確認方法は、メールやLINE、電話などでした。訓練の発令から48時間までに96％の会員の安否確認が例年通り実施できましたことをご報告いたします。皆さま、ご協力ありがとうございました。

今後も、地震に限らず様々な自然災害が発生することが予測されます。災害時は自身の安全の確保が第一優先となりますが、今後とも当会の活動にご協力どうぞよろしくお願いいたします。

災害派遣助産師募集中です→→→→→

2024年1月27日（土）　「周産期福祉避難所における助産師の役割を考える」研修会報告

宮城県助産師会　災害対策委員　戸田恭子

令和5年度宮城県助産師会の災害対策研修会は会員対象とし、オンラインで開催しました。参加者は30名でした。

初めに災害対策委員より「助産師会災害支援の基本方針」、「周産期避難所の概要と派遣助産師の役割と課題」について情報提供を行いました。その後、5つのグループに分かれて周産期福祉避難所の派遣助産師について考えたことや、今後大規模災害が起こった場合の助産師の役割について話し合いをしました。

参加者は、周産期福祉避難所での支援や課題などイメージしやすく知ることができて、実際にどのように関われるのか考えていきたい、などの感想がありました。

今後の研修会予定・お知らせ

令和6年度一般社団法人宮城県助産師会通常総会

（対面・オンライン同時開催・委任状同封）

日時：**令和6年5月25日（土）**

10：00～12：00（9：30オンライン開場）

会場：宮城県医師会館（大手町1-5）

委任状は同封ハガキを4月10日（水）までに必ずご返送ください。

出席予定の方にはメールにてご案内をお送りします。

メールアドレスに変更のある場合はお知らせください。

問い合わせ：一般社団法人宮城県助産師会　書記　伊藤朋子
（miyagisanba@gmail.com）

教育講演

日時：**令和6年5月25日（土）**13：00～14：30

対面・オンライン同時開催　（12：30オンライン開場）

会場：同上（総会会場と同じ）

講演テーマ：

～やさしい助産ケアのための関係づくりと対応（仮）～

＊詳細については、決定次第、広報メールよりお知らせいたします。

2024年度会費に関する連絡

日本助産師会年会費　15,000円
宮城県助産師会年会費　8,000円

- 口座振替日は**2月26日（月）**
- 残高不足のため口座振替ができなかった方、2回目の引き落としは**3月25日（月）**
- 退会予定者は、マイページより退会申請手続きをして下さい。
- 4月1日以降の退会申請は会費の返金はできません。

一般社団法人宮城県助産師会

〒981-3298　宮城県黒川郡大和町学苑1-1
宮城大学看護学群　気付

電話：：090-2273-3834
電子メール：miyagisanba@gmail.com

＊FAXは解約いたしました

今後の研修会について

【仙台市委託事業　産後ケア事業（訪問型）研修】

小児科医に聞いてみよう

～よくある乳児のママの悩みと対応について～

第3回　：　3月13日（水）19：00～20：30

オンライン研修　（zoom）

講師：**岡田美穂先生**（医療法人社団泰佳詩会　おかだ小児科）

対象：産後ケア従事助産師（宮城県助産師会会員も可）

申し込み：不要　（広報メールアドレスよりご連絡いたします）

令和6年度の宮城県助産師会主催の研修会は、
◎5月教育講演　　◎11月
◎令和7年2月を予定しております。

この他、助産所ツアーやじょさんしフェスタなど、様々なイベント・研修を企画していきますので、広報メール kmiyagijyosannsi@gmail.com をご確認ください。

理事改選の年　理事を募集しております

理事改選の年になります。
助産師会理事として活動してみたいという方は、自薦・他薦を問いません。
総会開催当日までに、一般社団法人宮城県助産師会
miyagisanba@gmail.com　へご一報ください。

＊委員は随時募集しております。

災害派遣助産師募集

大災害発生時や緊急事態時、被災地域の情報収集を行い、支援が必要と判断した場合に、災害派遣助産師を派遣（電話訪問等の在宅での活動含む）し母児や、女性への支援を行います。この趣旨に是非ともご賛同いただき、災害派遣助産師の登録をお願いします。災害時、最も大事なのは会員ご自身です。登録によって、強制的に派遣を求める事はございません。（詳細については本会HPをご確認ください。）

【編集後記】　　広報委員　新沼映子　根本靖子

じょさんしフェスタや助産所見学ツアーなど、対面でお会いできる機会も増えてまいりました。新年度の総会は、対面とオンラインのハイブリット開催です。皆様のご活躍をこれからも紙面にてお伝えできることが楽しみです。

宮城県助産師会のHPが刷新されました。また、X・Facebook・Instagramでも情報発信しております。是非ご活用ください。

お会いしての情報交換にはかないませんが、会員の皆様に有益な情報源となるよう努めます。どうぞよろしくお願いいたします。